

令和5年(2023年)7月21日
第2回総合教育会議
資料2 - 2

別室運営：実践報告

東近江市立蒲生北小学校

教諭 川越ちづる(生きる力加配)

本校の現状と課題

- ① 特別な支援を要する児童の割合が多い。特別支援学級 6 学級・34名（在籍率13%）、通級指導教室通室児童13名。個が抱える課題もそれぞれ大きく、昨年度は同じ児童が対教師暴力と器物損壊を繰り返し行い、対応に苦慮した。
- ② 素直な子どもらしい児童が多い反面、他者とのかかわりが苦手、自制心や耐性が十分に育っていない。受け身的であり、失敗を嫌がる児童が多い。
- ③ 新興住宅地が校区世帯数の88%を占め、保護者の価値観も多様化している。地域の関わりが希薄で、家庭基盤や家庭教育力が脆弱な家庭が多い。

生徒指導上の取組の力点

① 特別支援教育の充実

特別支援教育について、全教職員が共通理解と認識を深める。また特別支援教育の視点に立ち、どの子にとっても個別最適な学びによる細やかな教育の推進を図る。

② SC、SSWの利活用

ケースに応じた的確に計画的にコーディネートを進める。SCおよびSSWによるアセスメント&コンサルテーションは複数教員で受け、即時校内ケース会議につなげる。また、SCおよびSSWをとおして中学校との連携を図り、切れ目ない支援に努める。

③ 校内ケース会議の充実

必要な時に、機を逃さず、短時間でも相談する。常に早期対応・組織対応を意識する。

④ 迅速、正確な情報の共有

状況に応じて書面もしくは口頭で、速やかな情報共有を図る。定期的に「子どもを語る会」を実施する。また、校務支援ソフトを活用して記録を残し、積み上げ、確実に引き継ぐ。

不登校問題に関する学校の課題

- 兄弟姉妹ともに不登校が見られ、校園にまたがり長期化している。
- 家庭での課題や不安を抱えたまま、登校してくる児童が多い。
- 別室対応の対象児童なのかを早急に判断することが難しく、不登校ぎみの児童を全て別室で指導することが難しい。
- 担当教諭が、入り授業や他の生徒指導に関わることもあり、常時別室に居ることができない。

不登校問題や教育相談体制等の学校アセスメント

- ・ 不登校が長期化している場合、定期的にケース会議を開催し、関係機関と連携しながらアプローチしているが、保護者の危機意識が薄れ、なかなか進捗せず、互いに疲労感が募っている。
- ・ 保護者や担任、担当者が一人で抱え込まず、全職員が共通理解の上で対応できるよう、ケース会議や保護者面談の内容を校務支援ソフト等を活用して情報を共有する仕組みを整備しているが、度重なる会議の開催とその報告書作成に労力を要し、超過勤務につながっている。
- ・ 児童の特性に加えて深刻な家庭問題がある場合、SCや医療等の関係機関と密に連携し対策を練るが、改善が難しい。

別室(おひさまルーム)の利用について

①教師用、保護者用を作成

②主な内容

- ・ 目的
- ・ 場所
- ・ 対象
- ・ 学習と生活について

・ 別室運営にあたり、細かな説明や手順を記述して、保護者に理解してもらった上で利用を開始する。別室の在り方を職員間で共有し、円滑に運営する。

※別紙参照



別室運営の環境づくり



その1：

出席できた日は、カレンダーにシールを貼ります！「〇個たったら、〇〇する！」と、自分(保護者)で決めます。



その2：

まずはおひさまルームに登校。学校に来たくなるような雰囲気にしたくて、別室登校の子どもたちと飾りつけをしました。



その3：

自分がどこにいるのかをお知らせするボードです。「頭が痛いので、保健室に行ってきます」など、メモをしてくれることもあります。

その4：

1日の学習スケジュールを自分で組みます。時間割を見ながら、自分の体調や気持ちに合わせて決めていきます。決めたようにできなくてもオッケーです！

| | | | |
|-------|---|--------|------|
| 8:40 | 1 | 社会 | 教室 |
| 9:30 | 2 | 国語 | おひさま |
| 10:35 | | スキル | |
| 10:45 | 3 | 算数 | おひさま |
| 11:35 | 4 | 音楽 | 体育倉庫 |
| 12:20 | | きゅうしよく | |
| 13:50 | 5 | 図工 | 教室 |
| 14:40 | 6 | 図工 | 教室 |
| | | げこう | |



その5：

衝立で仕切った学習スペースがあります。主に、タブレットを使って、教室とおひさまルームとを繋いでいます。自学自習することができるよう、個人ロッカーの中に学習用具を入れてあります。

ご清聴ありがとうございました。